

- 腸管出血性大腸菌感染症多発警報を発令[対象期間;8 月 29 日(金)から 9 月 7 日(日)]
- 小児科定点医療機関からの報告数が多かった感染症は、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ
- ヘルパンギーナは警報解除(高島保健所管内の警報発令は継続)
- RS ウイルス感染症が複数の保健所管内から報告
- バンコマイシン耐性腸球菌感染症(34 週診断例)が大津市保健所管内より報告

1. 全数報告の感染症

滋賀県内の医療機関において、感染症法で定められている一～四類および五類感染症の全数報告対象の感染症に該当する患者を診断した医師は、保健所に報告することになっています。これらの報告のあった症例を診断された週毎に集計しています。

診断週	類型	報告数	詳細情報
第 35 週診断例	一類感染症	報告なし	
	二類感染症	結核 7例	結核腫(50歳代男性)、肺結核(70歳代男性)、肺結核(80歳代男性)、肺結核および結核性胸膜炎;2例(80歳代男性、90歳代男性)、結核性胸膜炎(70歳代女性)、無症状病原体保有者(80歳代女性)
	三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 5例	O145 VT2(20歳代男性)、O26 VT1(10歳代女性)、O157VT不明(60歳代男性)、O157VT1VT2(10歳代男性)、O157 VT2(40歳代女性)
	四類感染症	レジオネラ症 2例	肺炎型(80歳代男性)、ポンティアック型(60歳代男性)
	五類感染症	報告なし	
第 34 週以前の診断例(*)	二類感染症	結核 1例	肺結核(80歳代男性)
	五類感染症	バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1例	70歳代男性 VanB, VanC

(*)平成26年 第 1 週以降に診断され平成26年 第 35 週に報告された症例

2. 全数報告の感染症の累計報告数と保健所管内別報告数

平成 26 年 第 1 週以降に診断された疾患を集計して累計報告数を滋賀県と全国について下の表に示しています。また、本週報の当該週に報告された症例数を保健所管内別に示しています。なお、期日以降に報告があった場合は、再集計し掲載しています。

分類	疾患	滋賀県		保健所別(35週)							平成26年累計		平成25年累計※	
		34週	35週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	滋賀県	全国	滋賀県	全国
二類	結核	1	7	4	0	0	3	0	0	0	150	17,111	277	26,471
三類	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	68	3	142
	腸管出血性大腸菌感染症	0	5	2	0	1	1	1	0	0	18	2,958	40	4,033
四類	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	392	0	128
	重症熱性血小板減少症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	44	0	48
	レジオネラ症	0	2	1	1	0	0	0	0	0	6	784	18	1,111
五類	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	743	6	1,041
	ウイルス性肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	167	1	284
	急性脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	324	3	358
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	119	2	205
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	181	5	207
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	999	13	1,550
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	41	0	82
	侵襲性インフルエンザ感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	132	3	106
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	1,228	11	970
	梅毒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1,091	3	1,220
	破傷風	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	87	0	128
	風しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	268	122	14,357
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	31
	麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	436	2	232

※ :平成26年1月現在の暫定数

3. 定点把握の対象となる五類感染症の発生状況

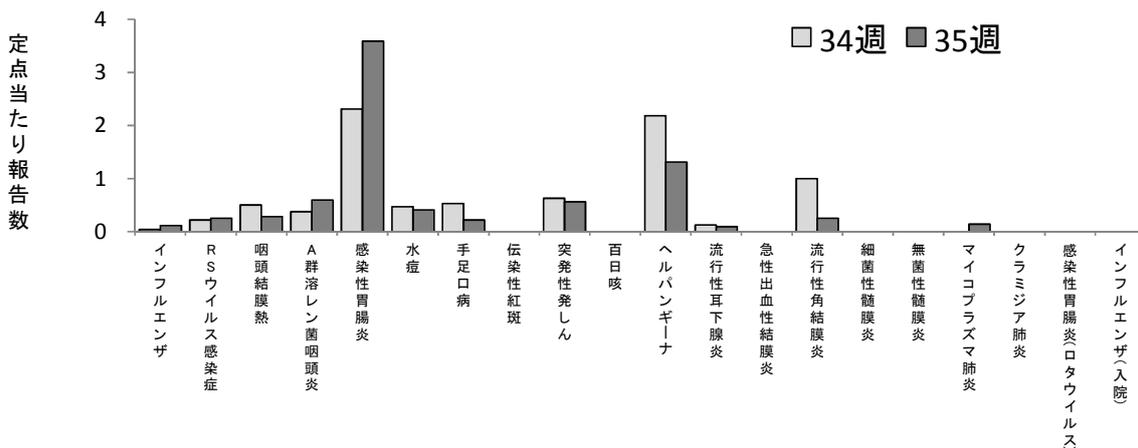
感染症法で定められている五類感染症のうち、滋賀県が指定した定点医療機関(指定報告機関)から報告される感染症を定点把握対象感染症と呼びます。

警報: ヘルパンギーナ 高島保健所管内(警報開始基準;6.00、警報終息基準;2.00)

注意報: なし

- 1) 小児科定点医療機関からの報告数が多かった感染症は感染性胃腸炎、ヘルパンギーナです。
- 2) ヘルパンギーナは滋賀県全域に発令されていた警報が解除されました。高島保健所管内では、定点当たり報告数が他保健所管内と比べて高い値で推移しており、警報発令は継続です。
- 3) 感染性胃腸炎が長浜保健所管内で著しく増加しました。
- 4) RSウイルス感染症が大津市、甲賀、東近江および高島保健所管内で報告がありました。
- 5) 流行性角結膜炎が甲賀保健所管内で報告されました。

定点把握の対象となる五類感染症の定点当たり報告数



4. 定点把握の対象となる五類感染症の保健所管内別の定点当たり報告数

週単位(月曜日から日曜日)で報告される定点把握対象感染症の、滋賀県および管轄保健所別定点当たり報告数を下の表に示しています(定点当たり報告数=報告数/定点医療機関数)。

定点区分 (定点数)	疾病名	滋賀県		保健所別(35週)						
		34週	35週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
インフルエンザ (53)	インフルエンザ	0.04	0.11	0	0	0	0	0	0	2.00
小児科 (32)	RSウイルス感染症	0.22	0.25	0.43	0	0.25	0.60	0	0	0.50
	咽頭結膜熱(プール熱)	0.50	0.28	0.14	0	0	0.20	0.25	1.00	1.00
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.38	0.59	0.43	1.50	0.50	0.60	0	0.25	0.50
	感染性胃腸炎	2.31	3.59	2.14	2.17	0.50	3.00	4.25	12.25	2.00
	水痘	0.47	0.41	0.57	0	0.75	0.60	0.25	0.25	0.50
	手足口病	0.53	0.22	0.14	0	0.25	0.80	0	0	0.50
	伝染性紅斑(リンゴ病)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	突発性発しん	0.63	0.56	0.71	0.67	0.25	0.80	0.25	0.75	0
	百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘルパンギーナ	2.19	1.31	0.71	0.83	0	1.40	0.75	1.75	7.50
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.13	0.09	0	0.17	0	0.20	0.25	0	0	
眼科 (8)	急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	1.00	0.25	0	0	2.00	0	0	0	0
基幹 (7)	細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	0	0.14	0	0	1.00	0	0	0	0
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)※	0	0	0	0	0	0	0	0	0
インフルエンザ(入院)※※	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

* 平成25年10月14日の滋賀県感染症発生動向調査事業実施要綱改正に伴い、基幹定点からの報告数(定点当たり報告数)を掲載

** 平成23年9月5日からインフルエンザ入院サーベイランスが開始されたことに伴い、基幹定点からの報告数(定点当たり報告数)を掲載

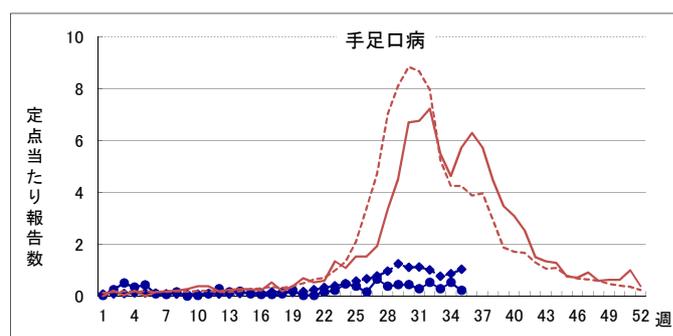
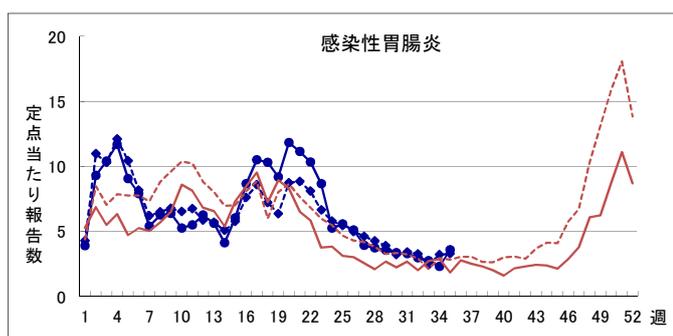
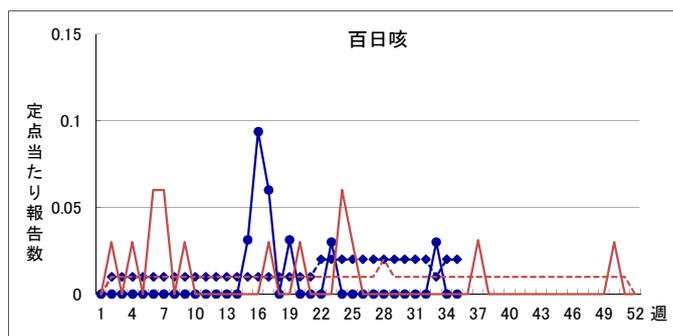
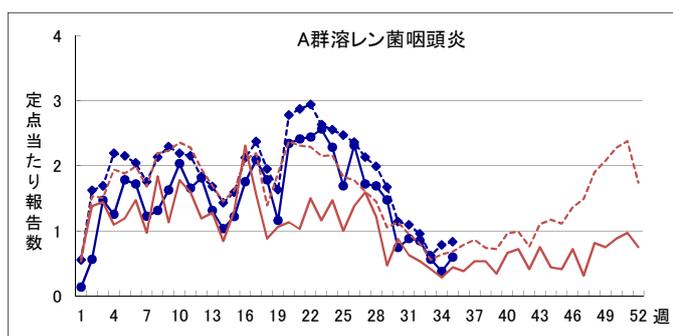
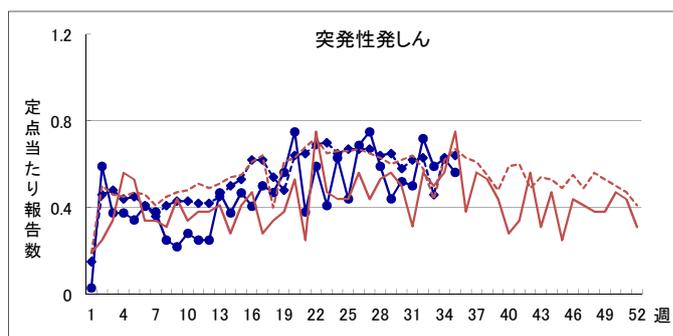
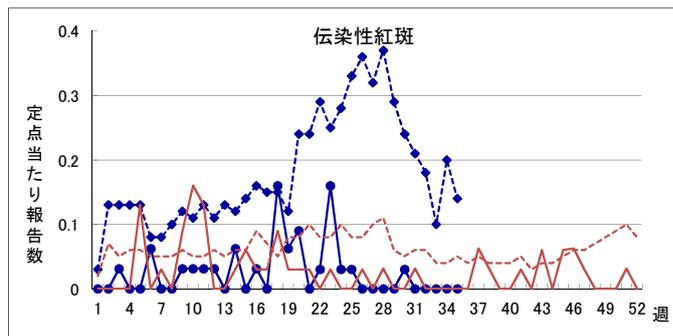
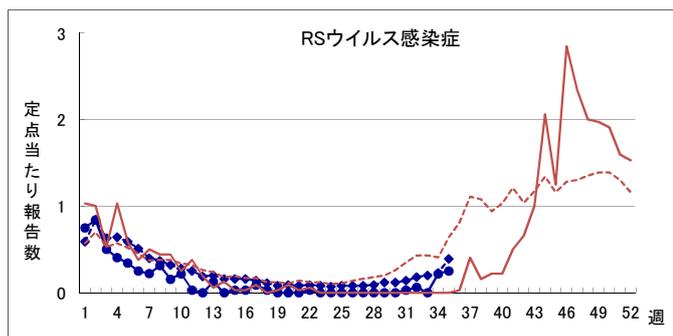
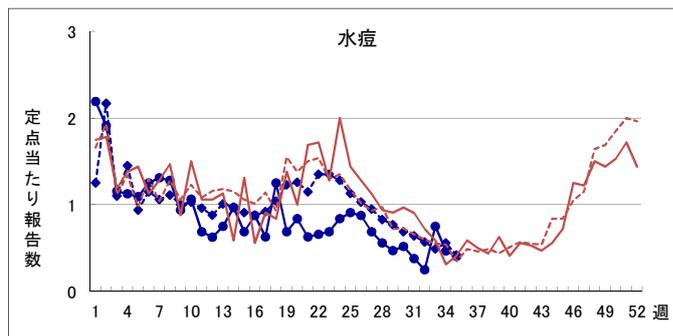
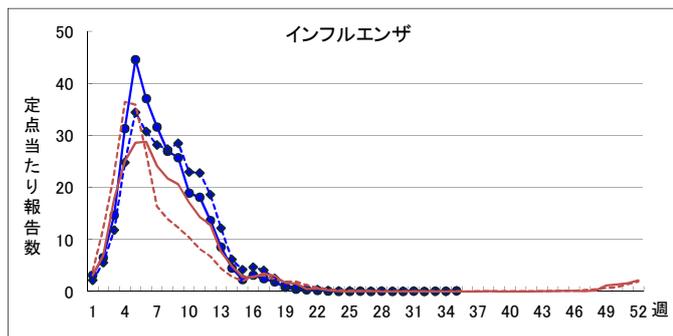
赤字: 警報レベルの基準値(開始基準値または終息基準値)を超過

紫字: 注意報レベルの基準値を超過

5-1. 疾病別定点当たり報告数

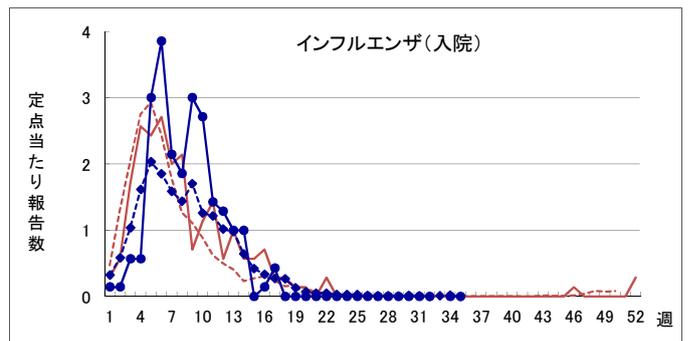
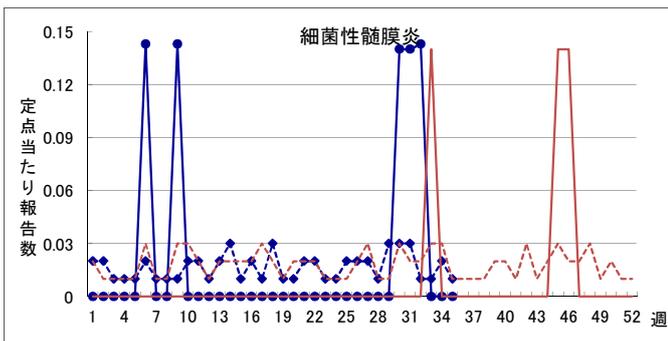
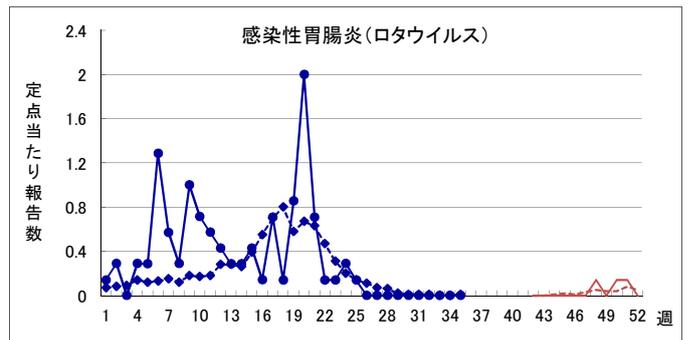
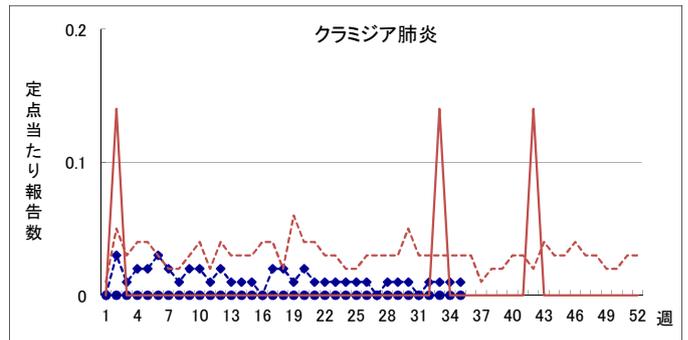
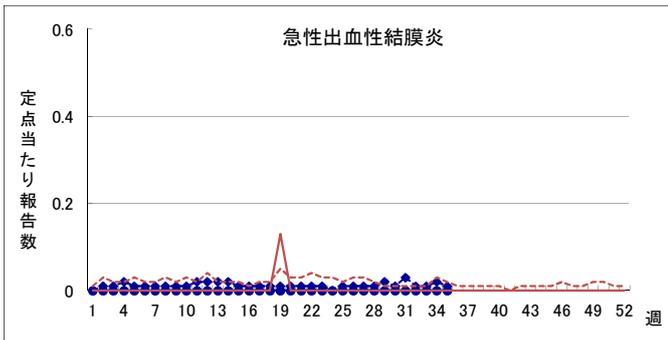
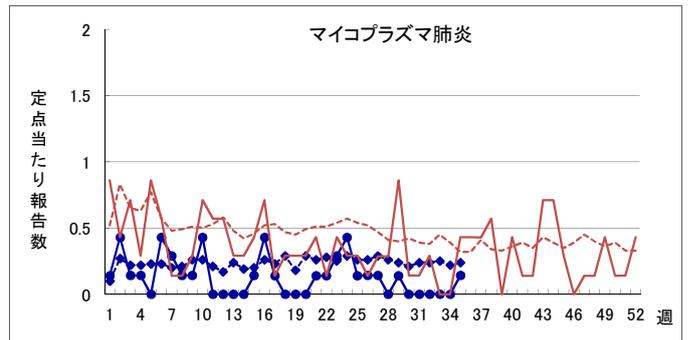
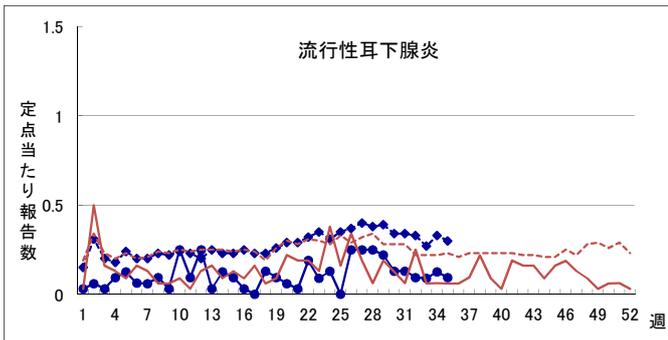
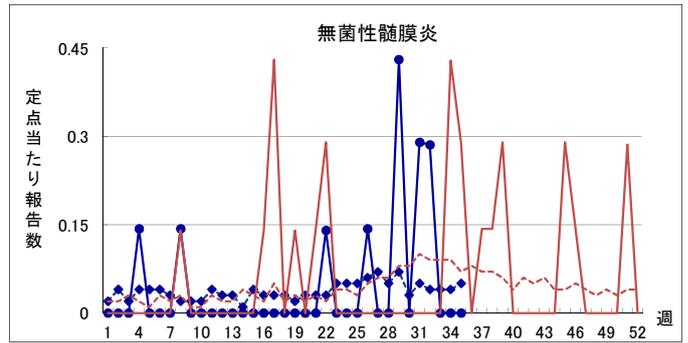
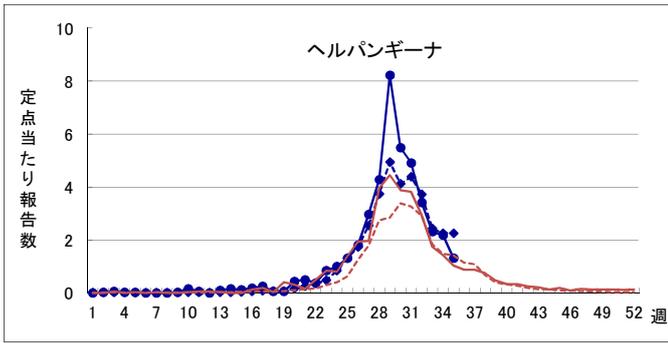
平成26年第35週

- - - 平成25年 全国 — 平成25年 滋賀県
- - - ◆ 平成26年 全国 — ● 平成26年 滋賀県



5-2. 疾病別定点当たり報告数 平成26年第35週

- - - 平成25年 全国 - 平成25年 滋賀県
 -●- 平成26年 全国 -●- 平成26年 滋賀県



腸管出血性大腸菌感染症の発生動向 平成26年第35週

1. 腸管出血性大腸菌感染症多発警報 [対象期間; 8月29日(金)から9月7日(日)]が発令されました。
2. 第1週(平成26年1月)からの累積報告数(18例)は昨年(平成25年)の同時期(31例)と比べて減少しています。
3. 第35週(8月25-31日)において、5例の症例が報告され、週当たりの報告数が著しく増加しました。5症例全てに共通する原因は認めませんが、例年9月中までは報告数が特に多い時期ですので、対策の強化を継続してください。

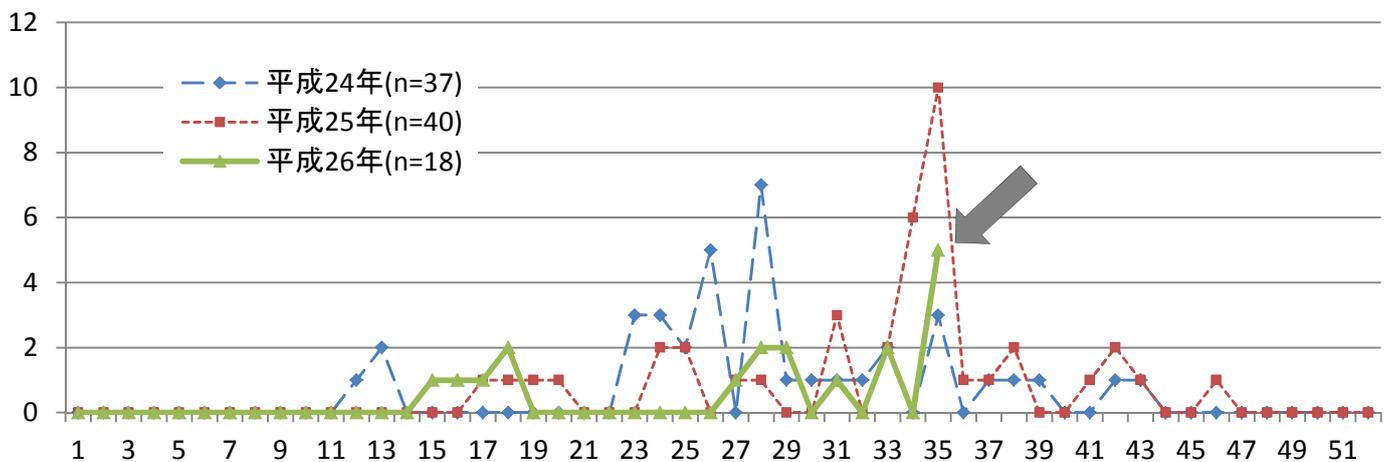


図1. 滋賀県の腸管出血性大腸菌感染症の診断週別報告数
(平成26年第1-35週)

特徴と対策方法

1. 潜伏期間は3～9日、主症状は発熱・下痢・腹痛・血便などです。
2. 抵抗力の弱い高齢者や乳幼児が感染すると、重症化することがあります。
3. 症例から家族などへ感染が拡大することがあります。
4. 帰宅後、調理前、食事前、トイレの後、動物とふれあった後にはよく手を洗ってください。
5. 生野菜はよく洗い、食肉等は十分加熱してください。
6. 焼き肉などをするときには、生肉を扱う箸と食事用の箸を使い分けしてください。

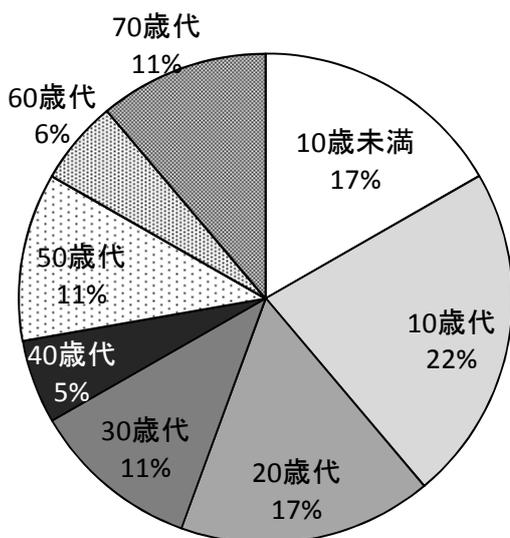


図2. 滋賀県の腸管出血性大腸菌感染症の各年齢群割合 (平成26年第1-35週、n=18)